

小論文

北里大学医学部 2026 年度型 そっくり類題 3 日分

※ これは北里大学の入試問題ではありません。
2026 年度の出題形式（課題文＋問一～問三・90 分）をもとに、
TMPS 医学館が題材と本文を新しく作成したオリジナル問題です。

試験時間の目安：1 日分につき 90 分

- 類題①（2/14 型）・類題②（2/15 型）・類題③（2/16 型）の 3 題です。1 題ずつ、90 分で解いてください。
- 問一・問二は短い原稿用紙、問三は 20 字×40 行（800 字）の原稿用紙に、横書きで解答してください。
- 句読点や「」も 1 字として数え、制限を超えないようにしてください。段落の最初は 1 マスあけます。
- 実際の解答用紙の形式は大学の発表を確認してください。この冊子の原稿用紙は TMPS の練習用です。
- 解答例と解説は、解説ページ（TMPS 医学館の過去問解説図書館）に掲載しています。

類題① 2/14 型（AIの限界と可能性）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

病院の電子カルテに記録された長い文章を、数秒で要点にまとめる AI が使われ始めている。AI は、書かれた言葉の中から重要そうな部分を取り出す作業が得意だ。ところが、診察では、記録に書かれていない情報が、診断に大きく影響することがある。

例えば、患者が「大丈夫です」と答えたときの表情の曇りや、家族の付き添いの様子は、文章には残りにくい。熟練した医師は、記録を読みながら、同時に目の前の患者の様子を観察し、必要に応じて質問を変える。すなわち、既にある文章を処理する力と、その場の状況を見て判断を変える力の両方を使っているのである。

要約 AI は、前者を大きく助けてくれる。しかし、要約は診察の代わりにならない。AI が整えた文章が、いつも患者の全体像を表しているとは限らないからだ。今後は、AI が使える情報の幅が広がり、表情や声の調子にも対応できるようになるかもしれない。それでも、記録の外にある患者の事情を引き出すのは、人と人との対話である。

問一 20 字以内でタイトルをつけなさい。

問二 傍線部「要約は診察の代わりにならない」について、「記録に書かれた情報」と「その場の状況」という言葉を用いて、150 字以内で説明しなさい。

問三 医療現場において要約 AI を活用する場合の利点と欠点について、本文を参考に 800 字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（150 字以内・20 字×8 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right side, there is a vertical axis with numerical labels at intervals of 100, starting from 100 at the top and ending at 800 at the bottom. The labels are 100, 200, 300, 400, 500, 600, 700, and 800. The rest of the page is covered by the grid without additional markings or text.

類題② 2/15 型（キャリアの考え方）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

進路に悩む学生にとって、ロールモデルは心強い存在である。しかし、「あの先生のようにになりたい」と一人の姿を目標にすると、その人と自分との違いが、かえって苦しさを生むことがある。

私は、キャリアを一枚の完成した地図(A)のように描くのではなく、手元の方位磁針(B)を頼りに歩くものと考えている。方位磁針とは、自分が大切にしたい価値観のことである。道の先は見通せなくても、価値観が示す方角に向かって一歩ずつ進めば、実際に歩いた道がそのまま自分の地図になる。

そのために勧めたいのは、一人の「完成した人」を探すことではなく、複数の人の「小さな部分」から学ぶことである。診察の説明が丁寧な先輩、手技が正確な先生、チームをまとめるのが上手な看護師。それぞれの良い点を集めれば、自分だけのモデルができあがる。そして、時々立ち止まって、自分は何を大切にしたいのかを問い直してほしい。

問一 20字以内で本文の内容を表すタイトルをつけなさい。

問二 著者は傍線(A)で「一枚の完成した地図」、傍線(B)で「手元の方位磁針」と記載している。キャリアに関するこの2つは具体的にはどのような意味か、150字以内で説明しなさい。

問三 本文全体の意をふまえて、医師のキャリアについての著者の主張を説明しなさい。その次に、著者の主張に対してあなた自身の考えを述べなさい。問三全体で800字以内で記述しなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（150 字以内・20 字×8 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right side, there is a vertical axis with numerical labels at intervals of 100, starting from 100 at the top and ending at 800 at the bottom. The labels are 100, 200, 300, 400, 500, 600, 700, and 800. The rest of the page is covered by the grid without additional markings or text.

類題③ 2/16 型（情報の取り入れ方）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人は「分かりやすい話」が好きである。原因が一つに決まり、善と悪がはっきりしている物語は、聞いたそばから腑に落ちる。しかし、現実の出来事は、複数の原因が絡み合い、すっきりとは説明できないことがほとんどである。

脳にとって、複雑なものをそのまま抱えておくことは負担が大きい。だから脳は、手早く筋の通った物語をつくって、「分かった」と感じようとする。一度「分かった」と感じると、その物語に合わない情報は目に入りにくくなり、合う情報ばかりが集まる。こうして、実は単純化された理解が、本人には確かなものに思えてしまう。

健康に関する情報は、特にこの落とし穴にはまりやすい。「この食品だけで病気が治る」といった話は、分かりやすく、希望を与えてくれる。だからこそ、納得できたときに、一度立ち止まる習慣が必要である。

問一 20字以内でタイトルをつけなさい。

問二 傍線部「手早く筋の通った物語をつくって、『分かった』と感じようとする」について、脳がなぜそのようなことをするのか、文中の言葉を用いて100字以内で答えなさい。

問三 動画やSNSなどから健康に関する情報が大量に得られるようになったが、それらをどのように取り入れて、自分の判断や学習に活かしていきたいと考えるか。この文章の内容も含めて、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（100 字以内・20 字 × 5 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right-hand side, there is a vertical axis with numerical labels at intervals of 100, starting from 100 at the top and ending at 800 at the bottom. The labels are 100, 200, 300, 400, 500, 600, 700, and 800. The rest of the page is an empty grid area.